

H13

\*\*2011年2月改訂（第5版）

\*2009年6月改訂

貯法：気密容器、室温保存

〔取扱い上の注意〕の項参照

使用期限：容器、外箱に表示

## 漢方製剤

## 本草 三黄瀉心湯エキス顆粒-M

日本標準商品分類番号	
875200	
承認番号	(61AM)第4148号
薬価収載	1986年10月
販売開始	1986年10月

## ◇組成・性状

販売名	本草三黄瀉心湯エキス顆粒-M	
組成	本品7.5g中（3包中）	
	日局ダイオウ…2.0g 日局オウゴン…1.0g 日局オウレン…1.0g より製した水製乾燥エキス0.7gを含有する。	
添加物	乳糖水和物、メタケイ酸アルミン酸マグネシウム、ステアリン酸マグネシウム	
性状	剤形	顆粒剤
	色	黄かっ色
	におい	わずかに特異なにおい
	味	やや苦い
	識別コード	H13

## ◇効能・効果

比較的体力があり、のぼせ気味で、顔面紅潮し、精神不安で、便秘の傾向のあるものの次の諸症：

高血圧の随伴症状（のぼせ、肩こり、耳なり、頭重、不眠、不安）鼻血、痔出血、便秘、更年期障害、血の道症。

## ◇用法・用量

通常成人は1日7.5gを3回に分割し食前又は食間に経口投与する。

なお、年齢、体重、症状により適宜増減する。

## ◇使用上の注意

(1)慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- 1)下痢、軟便のある患者〔これらの症状が悪化するおそれがある。〕
- 2)著しく胃腸の虚弱な患者〔食欲不振、腹痛、下痢等があらわれることがある。〕
- 3)著しく体力の衰えている患者〔副作用があらわれやすくなり、その症状が増強されるおそれがある。〕

(2)重要な基本的注意

- 1)本剤の使用にあたっては、患者の証（体質・症状）を考慮して投与すること。なお、経過を十分に観察し、症状・所見の改善が認められない場合には、継続投与を避けること。
- 2)他の漢方製剤等を併用する場合は、含有生薬の重複に注意すること。ダイオウを含む製剤との併用には、特に注意すること。
- 3)ダイオウの瀉下作用には個人差が認められるので、

用法・用量に注意すること。

## (3)副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していないため、発現頻度は不明である。

## 1)重大な副作用

\* \* ①間質性肺炎：発熱、咳嗽、呼吸困難、肺音の異常等があらわれた場合には、本剤の投与を中止し、速やかに胸部X線、胸部CT等の検査を実施するとともに副腎皮質ホルモン剤の投与等の適切な処置を行うこと。

\* \* ②肝機能障害、黄疸：AST(GOT)、ALT(GPT)、Al-P、 $\gamma$ -GTP等の著しい上昇を伴う肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

## 2)その他の副作用

	頻度不明
消化器	食欲不振、腹痛、下痢等

## (4)高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

## (5)妊婦、産婦、授乳婦等への投与

- 1)妊婦又は妊娠している可能性のある婦人には投与しないことが望ましい。〔本剤に含まれるダイオウの子宮収縮作用及び骨盤内臓器の充血作用により流早産の危険性がある。〕
- 2)授乳中の婦人には慎重に投与すること。〔本剤に含まれるダイオウ中のアントラキノン誘導体が母乳中に移行し、乳児の下痢を起こすことがある。〕

## (6)小児等への投与

小児等に対する安全性は確立していない。〔使用経験が少ない〕

## ◇取扱い上の注意

本品の品質を保持するため、直射日光を避け、なるべく湿気の少ない涼しい所に保管し、開封後は湿気に注意して、フタを十分に閉める等、取扱いに注意すること。

## \*◇包装

500g 2.5g×294包 2.5g×42包

## ◇文献請求先

本草製薬株式会社 学術部

〒468-0046 名古屋市天白区古川町125番地